

パネルディスカッション「科学の成果と今後の展望」にむけて、
「衛星観測がもたらす極域環境変化情報と社会への影響」から
国立極地研究所 榎本浩之

- 北極では、海氷、氷床、積雪、凍土、生態系の変化が起きている。さらに産業やそのためのインフラや情報整備、ルールづくりも起きている。
- 極域で起きている変化：遠隔・地域的な影響に留まらずグローバルなものになりつつある。

その観測体制や情報の流れ

- 気候から社会への影響の現れ方：複合・連鎖を観測・予測する。観測と知識のギャップはどこに、またどう埋めるか。
- 科学から社会にむけて：情報発信と必要なデータの提供の進展。
知識と意識の共有が環境、防災、産業に有効なはず。
衛星データの広範性、安定性、可視という点で貢献をめざす。